

令和4年度 県立水戸工業高等学校自己評価表

目指す学校像	◆ 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守り、充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<p>成果 就職内定率 100%(198/198) 進学者合格率 100%(109/109) (令和4年3月31日現在)</p> <p>ジュニアマイスター認証 57名 (ゴールド27名、シルバー16名、ブロンズ14名で、このうち2名が特別表彰)</p> <p>課題 国公立大学合格者が平成29年度より増加しているが、進学を意識した学習指導体制づくりが課題</p>	ICTを活用した分かる授業	<p>① ICTを活用し、主体的で、対話的で、深い学びができる授業を実践し、分かる授業を目指す。 資格取得や検定合格を目指し、専門性を高めるとともに、自ら学ぼうとする態度を育てる。 生徒の進路実現を目指し、キャリア教育の充実を図る。</p>	A
	資格取得		
	進路実現	<p>② 規範意識の高揚を図り、基本的な生活習慣を確立させ、水工生としての自覚と責任感を身に付けさせる。 道徳心や公共マナーの向上を図るとともに、問題行動や交通事故の未然防止に努める。 整理・整頓・清掃等、校内環境の美化に努め、安全・安心な教育環境を整備する。</p>	A
	基本的な生活習慣の確立		
問題行動等の未然防止	<p>③ 部活動の活性化と強化を図り、自主性・協調性を育む。 学校行事を通して生徒と保護者や地域との交流を図り、充実感や達成感のあるものにする。 中学校や大学と連携し、本校の教育活動や成果を広く内外に発信する。 働き方改革について意識し、ワークライフバランスを整え、心身ともに健康な状態を維持し教育活動にあたる。</p>	A	
教育環境の整備			
部活動の活性化			
学校行事を通じた交流			
連携と情報発信			
働き方改革の意識向上			
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	○学校経営計画表の「目指す学校像」等に対応 歴史と伝統とともに築き上げてきたものづくり教育の原点と誇りを守りつつ、新しい時代へ対応する充実したキャリア教育・職業教育を実践し、自ら考え、行動できる力を育む教育を目指すとともに、時代の流れを掴み、対応できる能力を備えた科学技術者・技能者を育成する学校を目指す。	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	○グランドデザインの「教育目標」に対応 ①望ましい職業観・勤労観の育成を図るため、キャリア教育・職業教育及び教科学習を充実させる。 ②生涯学習の意義を明確に伝え、知・徳・体のバランスのとれた力を養う。 ③道徳教育を重視し、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、規範意識の向上を目指す。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	○各校の「スクールガイド」等に対応 ① 工業化学科では、化学を基礎から学び、製造・研究開発・分析業務にあたる技術者を目指す意志のある生徒 ② 機械科では、基礎知識や専門技術を身に付け、あらゆる分野に柔軟に対応できる視野の広い機械技術者を目指す意志のある生徒 ③ 電気科では、電気をつくる、届ける、利用するまでの基本となる知識と技術を幅広く学び、将来、社会で活躍できる電気技術者を目指す意志のある生徒 ④ 情報技術科では、プログラミングやネットワーク、マイコンを用いた制御および電気に関する学習を行い総合的なITエンジニアを目指す意志のある生徒 ⑤ 土木科では、土や水の力学的性質を知り、構造体をつくることを学び、最新の設備・機器を導入して、人々の生活に必要な施設(社会基盤、インフラ)を整備する視野の広い技術者を目指す意志のある生徒 ⑥ 建築科では、構造物を築き上げるために必要な知識や技術を学び、2級建築施工管理士補や2級建築士に合格できる知識や技能の習得を目指す意志のある生徒	

評価項目		具体的目標	具体的方策		評価	次年度(学期)への主な課題
教科	国語	基礎学力の向上を図る	毎時の授業の中で他人の意見を真剣に聞く姿勢を養い、それをふまえて、自分の考えを述べる対話的な学びを目指す。	①	A	自学自習への取り組みを促す有効な方策。 進学や就職に必要な国語力、表現力(面接、作文、小論文を含む)定着のための3年間計画。 「探究学習」における「国語力」の必要性の明確化、生徒への目標の明示。
			期限内提出や配付物の自己管理を促し、定期的にノート・課題を確認、指導する。また、考査結果などをもとに、生徒の苦手とする分野は個別に指導する。	②	A	
		自学自習の習慣をつける	問題集等の自習範囲を予告し、小テスト、スタディサプリ等で確認する。	①	B	
			辞書や参考図書、新聞、図書館の書籍などの情報や知識の選択の仕方やICTの活用方法を具体的に学び、主体的な学びを実践させる。	①	A	
		進路実現のための就職、進学へのサポートをする	進路に応じた表現力(話す、書く等)、コミュニケーション力(聞く、読む等)の育成に努めるとともに、新聞等を活用し、広く社会に目を向け、情報の真偽を見極める力を付ける指導を目指す。	③	A	
			担任や各工業科とも情報交換を行い、それぞれの工業科の求める生徒像(国語力)を育成するために教科内で研究する場を設け、3年間を見据えた深い学びを目指し指導を行う。	③	A	
教科	地歴・公民	基礎学力の向上を図る	毎時の授業において学習課題を与えて、課題解決を図らせる。また、それらの課題を2回以上提出させ、チェック・アドバイス・評価を行う。	①	A	多角的・多面的な思考力を育成するための実践。 探究型学習の授業計画及び効果的な導入方法についての研究。
		社会的事象への興味・関心を高める	Chromebook・電子黒板等を活用して「わかりやすい授業」を実践し、生徒の興味・関心を高める。	①②	A	
		主体的で、対話的で、深い学びの授業実践	平和で民主的な社会を形成するために必要な多角的・多面的な思考力を育成し、日本人としての生き方を考えさせる。	①②	A	
			探究型学習の時間を設け、グローバル化する国際社会に主体的に生きる公民としての資質・能力を育成する。	①②	B	
教科	数学	基礎基本の定着	基礎基本の定着のため、必要に応じて小テストや復習プリントを行う。また、スタディサプリを有効に活用し、課題や確認テストを実施する。	②	A	Cromebook及び電子黒板を活用した授業実践。 進学や就職に必要な力の定着のための3年間の計画。
			定期考査ごとに成績不振者(学年の8%以内を目標とする)に追試験や補講を行い、復習をさせる。	②	A	
		指導内容の充実	Chromebook・電子黒板等を活用して視覚的に「わかりやすい授業」を実践する	①	A	
			ICT等を活用した授業実践に向け、教員間で情報交換を行い、スキルアップを図る。	①	A	
		進学へのサポート	進学課外では、国公立大や茨城高専の入試出題傾向を分析し、合格に向けての指導をする。	①	A	
大学等の合格者に対して、大学での授業に対応できるように補習を行う。	①		A			
教科	理科	基礎学力の向上	必要に応じて生徒実験や演示実験を行い、またICTを活用し、主体的で、対話的で、深い学びができる授業を展開する。	①	A	ICTのよりよい活用法を共有し、主体的な学びにつながる実践を行いたい。 成績不振生徒や進学希望生徒への補習や課外を計画的に実施したい。
			考査ごとにノートやレポートを期限以内に提出するように指導する。	①	A	
		科学技術と社会問題の関連等の認知及び応用力の育成	原子力発電などをとおして、先端技術と環境の問題等を取り上げて、将来の職業をきちんと考えるきっかけを与える。	①	B	
			進学を希望する生徒に対して進学課外を実施し、進路実現に向けて応用力を養う。	①	A	
		授業態度の育成	授業を通して基本的マナーを指導する。	②	A	
レポートや課題を課して、学習に取り組む姿勢を養う。	②		A			
教科	保健体育	進路実現に向けた思考・判断・表現力の向上	R80やNIEを活用し、学習した内容を踏まえ、自分の意見をまとめ他者に伝える力を育む。(ALPDCAサイクルを意識した指導や添削によって「できるようになる」授業を行い、自ら学ぼうとする態度を育てる。	①	A	・ICTの活用についてさらに教科内で検討し少しずつでも確実に向上させたい生徒同士においても見える教え合いを通して、互いに教えあい、気づき合う環境の整備を目指す。
			ものづくり教育の原点を踏まえた態度の育成	安全教育・規範意識を大切に指導を行う。(保健「交通安全」「労働災害と健康」や体育「集団行動」「水泳」など)	②	
		教え合う時間を確保し、多様性(男女、得意不得意、障害や持病など)を受け入れ、協力する態度を育成する。		A		

教科	美術	美術を愛好し、美しいものに素直に心から感動できる感性を養う	授業で制作した作品の展示を校内・校外で年3回程度行うとともに、全国レベルの各種コンクール・コンテストに生徒作品を年3回程度出品し上位入賞・入選を目指す。	②	B	A	ICTの効果的な活用指導と評価の一体を目指した授業実践
		工業の学習内容と関連させながら課題に取り組みさせる	工業の学習内容と美術を関連させながら、基本的な技術と領域を幅広く学習させる。	②	A		
教科	英語	基礎学力の定着	英単語の小テストを各学年、年間8回実施し、語彙力の定着を図る。3年間で英単語帳1冊3,000語を学習することになる。	①	A	A	ICTの活用をさらに促進することで、生徒の興味を引くような授業を行っていくこと。そして、5領域のバランスが取れた授業の展開を目指す。
			授業を大切にし真摯な態度で取り組ませるほか、ノートテイクや音読、ディクテーションなどの諸活動への積極的な参加を促す。	②	A		
			成績不振者に対しては、定期考査前等に補習を行うことで既習事項の定着を図る。	①	A		
		基礎学力の向上	英検級別の課外を実施し、目標をもって学習することで、学力向上を図る。	①	A		
			1・2年生にはスタディサプリを活用し、3年生の希望者には、入学・入社試験に対応できる学力をつけるため、個々の進路にあった内容で補習を実施し、進路の実現を目指す。	①	A		
指導内容の充実	A L TやChromebook・電子黒板等を活用して「わかりやすい授業」を実践するとともに、生徒が生きた英語に触れる機会を増やす。	①	A				
教科	家庭	事故防止と安全指導に努める	実験・実習における事故防止のため管理徹底、施設等の衛生管理の強化を図る。	②	A	A	出前授業により調理に興味関心を持たせることができ、ITの設備の充実と成人年齢の低下による経済活動をわかりやすく教えることが課題となる。
		指導方法の改善充実を図る	授業に興味・関心を高めさせるため、指導内容を点検し、指導方法の改善に努める。	②	A		
			学習の理解度を把握するためにプリントの工夫をし、不十分な生徒へは補習を実施する。	②	A		
工業科	工業化学科	基本的生活習慣の確立	担任や他の教科担当者との連絡を密にし無断欠席、遅刻、早退をなくす。	①	B	A	化学への興味と学習意欲をさらに向上させること。化学系業務を行う企業への就職、化学に関係する大学学部学科への進学を勧めること
		学習意欲の向上と基礎基本の充実を目指す	生徒一人ひとりに学習意欲を持たせる指導を行う。日々の授業を通して基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図り、学力向上を目指す。	②	B		
			実習では基本的実験操作の習得とともに、常に考察する姿勢を身につけさせる。また、徹底した安全教育を行う。	②	A		
		進路への意識を高め進学・就職全員合格を目指す	様々な機会を通して進路に関する情報を提供し、進路決定への意欲を高める。	③	A		
工業科	機械科	機械科にふさわしい進路指導の実現を目指す	授業規律を確立・維持し、授業をしっかり受けさせる。	①	A	A	次年度に向けさらに資格取得に対する生徒の意識改革が必要である。また演習ノートの活用や補習計画についての検討が必要である。
			高専や大学の入試傾向を把握し、機械科としての課外を計画実施する。	②	B		
			進学や就職に対応した面接指導を行う。	③	A		
		資格取得を奨励し、生徒の技術向上と向学心の育成を図る	機械科として目標とする資格試験を精選し試験日程に合わせた補講計画を組む。	②	A		
			年度当初に、機械科として目標とする資格試験や試験日程等を紹介し、生徒に目標と向上心を持たせる。	②	B		
		高校生としてのマナーを身に付けさせる	管理室への出入りや教職員への言葉遣いなどのマナーを指導する。	②	A		
			頭髮や服装の乱れを指導する。	②	A		
本校の今後の方向性を検討する	今後の本校の在り方や機械科の実習等について話し合い、検討する	①	A				
	機械科のカリキュラムについて検討する。	①	B				

工業科	電気科	基本的生活習慣の充実	実習始めの集合時間(5分前行動)を厳守する。遅刻・欠席をなくす。 報告書提出の期限を厳守する。	①	A	A	・高度な資格取得の奨励。 ・卒業後の進路設計を自ら考えることのできる能力を身につけさせる。 ・ICTを活用した授業展開を積極的に勧める。
		資格取得の推進	基礎的な資格取得及び高度な資格取得を目指す。 課外指導を充実させる。	①	A		
		安全教育の徹底	実習時の頭髪服装等の指導をする。 実習終了時の整理整頓を徹底させる。	②	A		
		自己変革力を身につけさせ、変化に対応できた進路指導の実現	将来の進路を考えて選択出来るよう指導する。 進学・就職希望者に対応したきめ細かな指導を行う。	①	A		
				①	A		
工業科	情報技術科	基礎的な生活習慣の確立	高校生としてのマナーを身につけさせる。 日常生活や学習行動をとおして個別に生活指導を行う。	②	A	A	・いばらきP-TECHの活用による産学官連携の推進、および連携事業による生徒の進路意識の向上。
		学力の向上 資格取得の推進	基礎的な学力を身につけさせ、社会人としてふさわしい生徒に育てる。 資格試験に合わせ、生徒の能力にあった指導を行う。	①②	A		
		進路指導の充実	生徒が目標とする進路の実現に向け、個別に対応する。 面接指導・学力指導を早い時期から行い、実践的な能力を身につけさせる。	②	A		
		広報活動の充実	ホームページ等で情報技術科の生徒の活動を中学校に広報する。	②③	A		
			進学先や就職先に対して、積極的な広報活動を行う。	①②③	A		
		③	A				
工業科	土木科	新課程の導入を踏まえ教育課程の特色を明確にする。	生徒が興味を持って学習に取り組めるような授業展開を図る。ICTを含む新しい知識・技術の導入を図る。	①	A	A	・建設系資格は多くの生徒が取得でき昨年度を上回る結果だった。オンライン学習で実習時間が十分に確保できなかった。 ・ICTを活用した授業を展開を実施するにあたって、wifi環境が整っていない実習室がまだある。
		実験・実習の重視	周到な準備を心がけ結果が想定以外の場合には、その原因を追及し究明させる。施設設備の充実や指導者の養成に努める。安全教育を徹底し事故防止に努める。	①②	B		
		生徒の職業指導	生徒の適切な進路選択、適応のため組織的継続的な職業指導を行う	①	A		
		建設系技能資格取得	土木施工管理技術者をはじめとする建設工事における技術者の取得を目指す。	①	A		
工業科	建築科	基本的生活習慣や道徳心を高める。	挨拶の習慣や高校生としての言葉遣いを身につけさせる。授業を受ける真摯な姿勢と心構えを養う。 学校生活を通して、望ましい人間関係を構築する能力を育成する。自立心の育成、心身の調和のとれた生活を確立する。	②	A	A	・実習・課題研究の実施状況の改善。 ・ICT(タブレット)を活用した授業展開を検討。
		基礎学力の定着を図り、製図、実習、課題研究などの体験学習を充実し建築技術の向上を図る。	基礎学力の定着をはかるため、定期テスト・小テスト・実習課題のほかには課外を随時実施する。資格取得の指導を積極的に実施する。 自主設計・模型製作・木材加工・測量実習などを通じて、建築技術の習得・ものづくりの心を磨く。より専門的な技術を身につけるために出前授業などを実施する。	①	A		
		進路指導の充実を図る。	早期より進路意識を高めさせ、面接指導などの充実を図る。外部講師による進路ガイダンスなど地域社会と連携し進路指導を行う。	①	A		
			学年や進路指導部との連携をはかり、就職・進学内容の質的向上をはかる。	①	A		
校務分掌	教務部	校内の円滑な情報交換と連携	各学科、教科、校務分掌間の情報の共有化と円滑な連携を図る。	①	A	A	・各科を見学できる学校説明会の実施。
			学校行事の調整による円滑な実施と十分な授業時間の確保を図る。	①	A		
			情報システム部と連携を密にして校務支援システムにより成績処理等が円滑に移行されるように最善を尽くす。	①	A		
		積極的な学校情報の発信	学校説明会、学校公開や中学校での高校説明会などの機会を積極的に活用して、中学生、その保護者および中学校の先生方に本校の特色や魅力を理解してもらおう。	③	A		
			学校案内や入学案内等の資料を積極的に活用し、外部へのアピールを図る。	③	A		
		教育活動の活性化	新教育課程に向けて研究・検討を始めより良い教育課程の完成を目指す。 欠席、遅刻、早退等の生徒情報を全員で共有し、指導の工夫を図る。	①	A		
		学習環境の整備	積極的に授業に取り組む姿勢と自ら学ぶ態度を身につけさせる。 備品、環境整備等の充実を図り、全職員が健康的に働きやすい環境作りに努める。	①	A		
		②	A				

校務分掌	生活指導部	家庭と協力して基本的な生活習慣の確立に努める	あいさつ・登校指導を年間5回実施し意識の高揚をはかる。	①②	B	B ・登校指導、頭髪服装指導やネットトラブル防止教室等を行い、基本的な生活習慣の確立を目指す。 ・自転車点検、立哨指導や交通安全講話を行い、交通事故防止および自転車の運転マナー向上を目指す。 ・ステッカー点検を、自転車点検の2～3ヶ月後に出来るだけ実施する。
		盗難のない安全な環境整備に努める	自転車の鍵や教室・個人ロッカーなどの施錠の徹底を図る。 巡回を行い、鍵の確認をする。	②	B	
		身なりを整える	月1回の頭髪服装検査を行う。全職員で共通理解のもと、指導に当たる。 家庭と連携しながら、指導に当たる。	①②	B	
		交通安全教育に努め事故防止を図る	自転車の安全点検を年間2回、ステッカー点検を年間4回行い、自転車の安全運転の徹底を図る。	②	B	
			立哨指導を定期的に行い、交通事故の防止を図る。生徒の年間交通事故件数ゼロを目指す。	②	B	
校務分掌	進路指導	キャリア教育の推進	各学年と協力して進路ガイダンスや道徳の授業をとおしてキャリア発達を促す。 基礎学力の充実や社会人基礎力の育成に努める。	①	A	A ・多様な進路希望の実現に向けて求人開拓を行いたい。 ・企業との連携を図り情報の提供を行いたい。
		就職指導の充実	企業訪問等とおして求人開拓に努める。 企業情報等の提供とおして、学力の向上や資格取得への動機付けを行う。	①	A	
		進学指導の充実	大学・高専を目指す生徒への確かな情報の提供と、学校選択に関するアドバイスを行う。 指定校枠の獲得等のため積極的に大学・専門学校訪問を行う。	①	A	
		進路情報の提供	水戸工業高校に対する理解を深めてもらうために、進路情報を積極的に中学校へ提供する。	③	A	
校務分掌	特別活動部	生徒会活動の充実	委員会活動や生徒会活動を通し、生徒の生徒会活動（本部・各種常任委員会）への参加及び意識を高める。	②	A	A クラスマッチの種目変更、生徒会費の見直しなど積極的に業務を行えた。
		部活動の充実	顧問会議・生徒中央委員会などを通して、部活動を運営する上で生じてくる問題点を把握し、充実した活動ができるよう支援する。	②	A	
			各部の部長を中心に部室や活動場所の整理整頓を促す。（長期休業前など） 年度当初の新生へ部活動紹介・部活動説明会を工夫し、部活動の加入率の向上を図る。	②	A	
校務分掌	厚生部	生徒の心身の健康を図る	様々な悩みを抱える生徒に対し、相談活動に努める。心身両面に渡るサポートをする。 特別支援教育委員会と協力して、必要とする生徒が適切な支援を受けられるようにする。	②	A	A 心と身体の健康は、学校生活全体に影響を及ぼすものなので、情報発信・収集および連絡・相談のシステムのよりよい方法を模索し、改善していく。また、環境整備の面からも清掃道具の充実を希望する。
		学習および生活環境の整備を図る	校舎内外の清掃の徹底を図り、快適な学校生活を送れるよう環境を整える。	②	B	
			在校生および進学予定者に奨学金制度の周知徹底を図り、生徒の進路実現において、経済面で支障が生じないように助言や指導をしながら、支援をする。	①	A	
校務分掌	学習指導部	基礎的な学力の定着と、学習意欲の向上を図る	年2回到達度テストを行い、各テスト後にスタディサプリにおいて、各個人の苦手箇所を中心とした課題の配信を行う。 資格試験の受験日程などの情報を提供し、資格取得の推進をする。	②	A	A ・外部講師による進学補習課外の内容について、本校のカリキュラムに沿ったものにできるよう、講師との連携を密にする。 ・スタディサプリの配信を、定期テストに反映させるなどして、生徒への意識付けを強くしたい。
		学力の向上を図り、進路指導と結びつける	スタディサプリでの宿題配信を、各教科（国、数、英）及び各担任の協力を得て実施する。 大学等への進学の手助けをする。	①	A	
			外部講師による進学補習課外を計画・実施する。また、実力診断テストなどの外部模試を学年と連携して計画・実施する。	①	A	
		担任との連携を密にし、保護者に資格試験などの情報を提供する	学習意識調査を生徒に実施する。クラス毎の結果も提供し、担任に面談などで活用してもらう。また、資格試験の取得状況の調査結果などを全職員に提供する。 保護者に学習意識調査や資格試験の取得状況などの情報を伝えるために、年2回程度保護者へ配付するプリントを作成する。	①	A	
				①	B	

校務分掌	図書視聴覚部	主体的、対話的で深い学びを支える機関として、あらゆる教育活動への対応、支援	読書センターとして読書活動、指導を支え、情報リテラシーやコミュニケーション能力の育成を目指すと共に、生徒の心の居場所となる。また、公共の場としてのマナー（感染予防対策含む）を学ぶ場とする。そのため、生徒一人あたりの年間貸出冊数2冊もしくは生徒一人あたりの年間図書館利用回数2回を目標とする。	①②	A	情報センターとして、各教科での「探究学習」を支えるICT機器及び資料の整備、また、それらの資料の授業での活用。
			学習センターとして学習活動の支援を目指し、ICTの設備の充実、授業での活用を支援する。そのため、教育課程に沿った資料を収集し、各担当者との連携に重点を置き、授業等での図書館利用回数週1回を目標とする。	①②	A	
			情報センターとして情報のニーズに対応し、情報収集、選択、活用能力の育成を目指す。そして、探究的な学習活動を支え、自ら学ぼうとする態度を育てる。そのために多種多様な資料を収集し、ICT環境を整え、生徒や教職員へのレファレンスサービスや研修会・講習会（教員向け年間1回以上）を行う。	①②	A	
		図書委員会は、読書推進活動として、館内外を問わず積極的に活動し、各種研修会にも参加し資質向上を図る。また、図書館ワークショップにおける他機関との交流事業を展開する。	③	A		
		放送委員会は、校内放送活動を定期的に行う。また、生徒会、各種常任委員会とも連携し、効果的な情報を提供する。他校務分掌と連携・協力し、電子黒板、PC、Wifi等を使用した映像による放送（集会）等の推進及び実現を目指す。	①③	A		
視聴覚機器による教科支援と校内活動の充実	視聴覚機器の整備・点検と設備の充実、視聴覚教材のリストを整備するとともに、利用方法を周知し、積極的に利用を促すために電子黒板等（未来タッチ）の効果的な使用方法を学ぶ研修会等を企画、実施する。また、GIGAスクール構想の実現に向けて他校務分掌と連携・協力する。	①②	B	図書委員会活動及び放送委員会活動のさらなる活性化		
校務分掌	情報システム部	校内LANの管理・運用を行う	ファイルサーバの管理・運用を適切に行う。	①	A	校内のICT環境の整備・改善に一層努め、校務・教育活動ともにICT活用の機会を増やすことを促す。
			各所のPCの保守・管理、校内LANの保守・管理を適切に行う。	①	B	
		校務支援システムの運用支援を行う	成績処理を正確に行うための援助をする。	①	A	
			成績処理システムの安全性の向上に努める。	①	A	
		情報発信の改善・運用を目指す	HPの充実に努め、積極的に本校からの情報発信を行う。	③	A	
			各分掌・教科からの情報発信を援助する。	③	B	
ICT教育の援助を行う	生徒セグメントの環境整備に努める。	②	A			
	ICT教育の援助に努める。	②	A			
校務分掌	庶務部	PTA活動の充実	一般会員の活動意欲を向上させ、PTA活動を充実させる。また、コロナウイルスの感染状況を見極め、できる範囲で行事を実施する。	③	B	・コロナ禍の影響により年度始め頃を中心として活動が中止となったものがあつた。ようやく行動制限の緩和への動きがあり、状況に応じた活動計画と開催を検討したい。どのような実施にするかを各会長や管理職、関係分掌と図っていきたい。
			研修教養委員会・広報委員会・生活指導委員会活動のさらなる充実を図る。	③	A	
			「PTA後援会合同会報」を年2回発行する。	③	A	
		PTA組織と後援会組織の連携	学校庶務・PTA役員・後援会役員の連携により、合同評議員会・合同総会を行う。PTAや後援会と連携してPTA・後援会合同研修会などの行事の企画・運営に努める。	③	A	
PTAと後援会の調整を図る。	③		B			
学年	第1学年	基礎学力の向上を図る。	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。	①	B	・スタディサプリなどを活用した学習意欲の向上 ・進路実現に向けた進路ガイダンス等の有効活用 ・規範意識の向上
			学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	①	B	
		専門教科の学習の充実を図る。	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。	①	B	
			各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①	B	
		基本的な生活習慣の確立を図る。	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。	②	B	
			家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施、きめ細かく指導する。	②	B	
		自他を大切にし、豊かな心を育てる。	LHRや「道徳」等を利用して、他人を思いやる心の育成に努める。	②	B	
清掃やHR等を通して、物を大切にすることを育てる。	②		B			

学年	第2学年	基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。	②	A	A ・面談を日常的に行うことで生徒の生活状況や進路希望などを把握することができた。次年度も生徒と関わる指導を継続したい。 ・進路指導計画を綿密に立て、生徒の進路希望に応じた適切な進路指導を行う。 ・基礎基本となる学力を身につける。生徒に目標を持たせながら最後まで頑張る生徒を育成する。
			家庭等との連絡を十分に行い、また個人面談等を実施し、きめ細かく指導する。	③	A	
		基礎学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣の確立を促す。	①	B	
			学年一斉の基礎学力テストを実施することによって、学習意欲を高めさせる。	①	B	
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、資格試験などに積極的に挑戦させる。	①②	A	
			各学科の内容をしっかりと認識させ、将来の進路を考えさせる。	①	A	
	進路指導の充実を図る	年間3回の実力テスト、年間3回の進路ガイダンス、12月～1月にかけて実施する就業体験等の機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	①	A		
		HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	①	A		
	自他を大切にし、豊かな心を育てる	道徳プラス等をとおして、他人を思いやる心の育成に努める。	②	B		
		清掃やHR等をとおして、物を大切にすることを育てる。	②	A		
学年	第3学年	基本的生活習慣の確立を図る	集団生活の中で、規則や規律を守ることの大切さを十分認識させる。	②	A	A ・延期していた修学旅行の実施ができた。 ・進路指導において、早期より進路意識を高めるよう、進路関係の多くのガイダンス等を積極的に取り入れた。 ・内定後に遅刻や欠席生徒が増えてしまったことが今後の課題である。
			家庭等との連絡を密に行うと共に、個人面談等を実施し、きめ細かな指導をする。	②	A	
		学力の向上を図る	意欲的に授業を受けることの大切さを認識させ、自学自習の習慣を促し、レベルの向上を図る。	①	A	
			進路の目標を明確にし、進路実現に向けた成績向上のための努力の大切さを教える。	①②	A	
		専門教科の学習の充実を図る	専門教科の指導に力を入れ、より多くの資格取得への積極的な挑戦をさせる。	①②	A	
			進路を考え、就職後に役立つ技能や技術を身に付けさせる。	①②	A	
	進路指導の充実を図る	進路ガイダンスや適性検査等の様々な機会をとおして進路に対する意識の高揚を図る。	①	A		
		HRや個人面談等で進路目標の早期決定に向けての指導にあたる。	①	A		
		進路決定後、社会・大学生活等での心構えやマナーについての指導を行う。	②	B		